



浙江省高等教育重点建设教材

模拟日语导游教程

杭州日本語ガイド口頭試験必携

中文・漢字日文・仮名日文対応

完全アクセント付き

- ◎ 主 编 金伊花
- ◎ 副主编 吴凌鸥 黄 慧
- ◎ 审 定 矢野章造

模拟日语导游教程

杭州日本語ガイド口頭試験必携

中文・漢字日文・仮名日文対応

完全アクセント付き

主 編 金伊花

副主编 吴凌鸥 黄慧

审 定 矢野章造

参 编 胡鸣 杨越 卢晟 金艳 江功艺

洪益良 张晶晶 安红华



ZHEJIANG UNIVERSITY PRESS
浙江大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

模拟日语导游教程/金伊花主编. —杭州: 浙江大学出版社, 2011. 6

ISBN 978-7-308-08714-8

I .①模… II .①金… III .①导游—日语—教材
IV .①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2011) 第 092209 号

模拟日语导游教程

金伊花 主编

责任编辑 吴昌雷

封面设计 刘依群

出版发行 浙江大学出版社

(杭州天目山路 148 号 邮政编码 310007)

(网址: <http://www.zjupress.com>)

排 版 浙江时代出版服务有限公司

印 刷 浙江云广印业有限公司

开 本 889mm×1194mm 1/16

印 张 27.5

字 数 1141 千字

版 印 次 2011 年 6 月第 1 版 2011 年 6 月第 1 次印刷

书 号 ISBN 978-7-308-08714-8

定 价 49.00 元

版权所有 翻印必究 印装差错 负责调换

浙江大学出版社发行部邮购电话 (0571)88925591

前 言

导游是门学问,作为曾经的日语导游和现从事旅游日语教学的教师,深知要成为日语导游的种种艰辛和困难。导游语言首先就是一个难关。为日语导游备考人员助一臂之力,提供一本值得信赖又便于使用的备考书籍,正是本书的编写初衷。

要练就一张“金口”,必须勤修内功。当然,导游员作为旅游服务人员不仅要具备理性、知性、还要有丰富的感情。因而在具体语言运用方面,还需要从语言文化加以注意。

日本人较之中国人,在语言交际过程中更多地注意对方的存在,更多地顾及对方的感受。作为日语导游员,导游语言不仅要符合句法的规约,还要遵循“礼貌原则”。

中日两国同属东亚儒教文化圈,长期的文化交流使两国拥有了很多相同的礼貌原则。言语交往中讲究赏脸,避免丢脸,要给面子,要顾全面子,用礼貌作为语用手段,力求和谐。当不得不使用有伤面子的言辞时,采用的策略往往是先肯定,后指出不足或先赞同,后摆出分歧,这就是所谓“求同”。但是,中日两国毕竟分属两个国家,礼貌原则也有很多不同之处。日本人之间的沟通在语音、词汇、语法三大领域中,形成了许多独特的以“体察”为特征的表达方式,常以暗示或含糊的方式表示自己的意图。人人都会根据对方与自己的关系采取具体的语言行为。

日语中的授受表达和领域限制与中文有很多不同之处。作为日语导游员要对这种不同加以留意。日语导游员往往误认为使用了敬语就抬高了对方面,其实日语中固有的“敬语使用”仅仅是礼貌策略的一部分,而非其全部。日本人的礼貌不仅仅是通过使用敬语就能达到的。授受关系是日语中独特而复杂、细腻而微妙的语法现象,表达方式丰富多彩、多种多样,充分反映出日本传统文化的特征及日本人特有的思维方式和价值观。汉语中授受关系只须使用一个“给”字就表达清楚了,然而,日语仅授受动词就有7个。日语授受关系除了表示“谁给谁什么”或“谁为谁做什么”这层意思外,还反映主体对授受关系的主观意识,即含有“内外意识”、“上下意识”、“恩惠意识”等。

日本人非常重视“恩”,本尼迪克特称他们为历史和社会的负恩者。日本人报恩意识很强,接受他人恩惠往往产生一种心理负担。因此日本人常说难以报恩于万一。日本人非常注意微妙的恩惠关系,在语言交际时,即使是不值得一提的利益也要用“他人为自己或己方做某事”,即“~てくれる”的形式,以表示对他人的尊重;即使自己的行为对对方有利,对别人也不用“自己或己方为他人做某事”,即“~てあげる”的形式来表达,认为这样才能保持交往中的关系平衡。因中文里没有这么多授受表现,日语导游的语言表达中与授受有关的表达受到母语的迁移常有省略的倾向。授受表达是日本民族独特的心理文化和思维方式特征的体现,导游语言应在授受表达上多下功夫,恰到好处的使用可以提升语言的礼貌程度。

日本人的思维中双方之间有明显的界限,即“间意识”。导游与日本游客之间的言语行为也要受到此限制。为了保持礼貌,不能随意地踏入对方的“私人领域”,未经允许,不得越过两人的界限,不然将会损害对方的“消极面子”(Brown 和 Levinson 将面子分为积极面子和消极面子,前者指人们希望获得他人的肯定和赞许,后者指人们有自主的自由,不因迁就别人或受到干预、妨碍而使自己感到丢面子)。日语中表达希望的助动词“たい”,在中日两国有不同的理解。中文导游可以毫无顾忌地询问客人“您想喝茶吗?”,但对日本客人说「お茶をお飲みになりたいですか」一定会引起客人的反感。中文中的“想”这个词汇在日语里对应的是“たい”“ほしい”,但是“たい”“ほしい”在日语里所表达的是人内心最深处的欲望,属于个人的隐私,是最不愿意让人侵入的领域,在个人领域范围内处于最中心的位置,要受到最强的限制。“たい”句既使用程度最高

的敬语来表达,也因威胁到了对方的“消极面子”,被认为是有失礼貌原则的话语,在日语里直接询问对方的愿望是不礼貌的。

中文表达中,经常可以听到这是“特意为您……”等这样的用语,说话方以明示自己处于奉献的立场,为了对方的利益负担了很多(如金钱、时间、心神等),从而表明对方对自己来说是很重要,自己乐意这样做。而对方一般也乐意接受这样的待遇。这在日语表达中是非常忌讳的,属于失礼的表达方式。日本人在赠送礼品时,更多考虑的是如何不让对方感到心理负担,然后才是表达心意。这也反映出不同的语言受其历史、社会、文化背景的影响是有着不同的表达方式。导游讲解时要充分注意这一点,才能够在感情与心理上达到相互理解,完成真正意义上的沟通和交流。

导游语言和法律语言、新闻语言、教学语言等一样,都属于社会行业语的变体。境外和境内旅游者对导游语言的好坏标准要求不同。境内游客对导游语言的“生动、幽默”要求较高,境外旅游者喜欢语言的“简洁、清楚”。当“有价值信息”的句子变得简短明了时,游客会更轻松记住其中的信息。导游词的学习是在反复练习中领悟的过程,在不断的反复之中加强记忆,进而形成一种日语的思维方式。希望这本书能对在职日语导游员和立志做日语导游员的同学有所帮助,也希望大家能够充分利用好这本书。

本书从酝酿到完稿经历了6年的时间,在这几年的稿件整理中得到了外籍教师平山初子、新井通世、横山勝よ老师的细心指教。也得到了洪益良部长、张晶晶部长、安红华部长等旅行社日本部各位部长的大力支持与帮助。在此表示衷心的感谢。本书的审定矢野章造老师为此书的全面完稿,付出了辛勤而忘我的劳动,在此表示最崇高的谢意。

由于作者的水平有限,本书的纰漏和错误在所难免,恳求读者提出宝贵意见。Email: jyk@tczj.net

●关于记号

1.“|”“||”表示语音的停顿(假名日文)

本书采用“|”和“||”两种符号表示语音的停顿。

“|”符号表示瞬时停顿,无需换气。“||”符号指示需要换气停顿的地方。

在练习初期要做到仅在“||”处换气停顿或许会有困难,因而初期时可以在“|”处换气停顿,但熟练之后,务必要做到仅在“||”标识处换气停顿。

这两种符号与在文章中起辅助作用的逗号“、”的所处位置并不相同,因而不可对照着“汉字日文”来确定换气停顿的位置。至于句号“。”,则理所当然表示该喘息的地方。

2.“˙”表示音调(假名日文)

在假名上标注的“˙”表示高低音调中的高音。比如“せいこ(西湖)”就表示高低低型音调。

如果持续以错误的音调来发音,要纠正回来相当困难。学习者可以每天抽出很短的时间(比如5分钟或10分钟),用于一边看音调的记号,一边做发声练习。这样一来,就应该会有一天,突然发现自己能够讲解得非常流畅。

拗音的高音标注,例如“しゃ”,会标注在辅音的部分。这样做,仅仅是为了标注方便。而我们在发音时,必须完整地按照1拍的节奏,以高音的方式来发出“しゃ”的音。促音“っ”当然是不发音。但由于先出现促音,再出现辅音,所以在音调标注时,对促音和紧随其后的辅音采取了一致的处理。若学习者能把1拍的促音“っ”发音发好,则更能体现日语的原味。

关于本书所标注的音调,编者参考了《明解日本語アクセント辞典,第二版(金田一春彦监督修订、秋永一枝编)》一书。

3.■、●、▼、()等

这些标记添加在表明文章层次的标题处。学习者无需去记忆符号后的词汇,但它们有助于提醒自己,当前所学的内容为何物。

4.语句编号

全文均有编号,便于教师指导。

5.“★★”和“★”表示重要项目

语句编号前有星号的标注。★★为在日语导游考试中不可或缺的重要内容。★为学习者可适当选择记忆的部分。而没有标注★的内容,学习者也可在其中选择自己感兴趣的内容、或容易记忆的内容作为讲解的补充。

●编写本书的目的

编写本书的初衷,是为了让参加日语导游考试的应试者能够很好地自学。对于已经取得日语导游资格的人员来说,将本书用于对讲解内容的重新充实也未尝不可。

汉字读音、语音停顿、音调,这些可能都是日语导游考试的应试者们为之困扰的问题。汉字的读音可以通过查字典等方式找到解决的出路,但如果身边没有日本人可以请教,往往难以掌握正确的语音停顿和音调。本书为学习者一概免去了此种困扰,只需用心学习,便会有收获!

●本书的结构

本书由汉语篇章(以下简称“汉文”)、穿插日文汉字的日语篇章(以下简称“汉字日文”)和纯粹假名的日语篇章(以下简称“假名日文”)共同组成。

“汉文”与“汉字日文”左右并列显示,“假名日文”位于下面,这样便于对照阅读,从而使学习者对语意理解、读音、停顿、音调的掌握都更为容易。

注:本书出现的“汉字”一词,指的是日语表述文字中的日文汉字。指代中文汉字时,采用“汉字”的写法。

●本书的内容

本书并非直接将中文翻译成日语,而是从易于为日本人理解的角度出发,精心选取措辞进行编写,这有别于以往。在词汇选择方面,尽可能避开外来语,选用日本的年长者们能听懂的话语。有固有名词时,尽量在充分表达中文意思的基础上以日语读法来读出,若如此还无法正确表达其意,则改用日文词汇来表达。

汉文是在日文篇章的基础上翻译而来,某些部分无法将日文直接翻译成中文,则进行了意译,也希望学习者可以在这些部分感受到两国语言表达方式的不同。

●关于假名日文

日文汉字,如“西”字,在“西湖”一词中读作“せい”、在“西方净土”中读作“さい”、在“東西”中读作“ざい”、在“西と東”中读作“にし”,一个汉字有多种读音。为正确显示读音,通常会选用在日文汉字旁标注假名的方法。然而,对于熟悉日文汉字的中文读法的汉语人群来说,日文汉字旁标注假名的方式虽然有助于理解该词汇的含义,但从音韵角度来说,这称不上是一种正确掌握日语语音的好方法。因为它总是容易让人在有意无意间把发音转到中文式发音上来。

日语语音的另外一个特点是它的“等拍性”。除“しゃ”等的拗音,每一个假名都是以同等的长度来发声,促音“っ”,撥音“ん”,“おうさま”中的长音“う”全都是一样的。虽然初期可能会有些不适应,但习惯于看“假名日文”有利于掌握日语的这一特性。

与“等拍性”同样重要的还有音节的停顿。“てんにてんごくあり ちにそしゅうこうしゅうあり”中要在“てんにてんごくあり”之后停顿一下再继续念,这样才易于理解。在对方听到我们所说的内容之后展开想象、进行理解的过程当中,正确的停顿发挥着重要的作用。语音停顿的另一个作用是换气。篇幅长的文章不是用来一口气读完的。如果换气停顿的位置不恰当,对方将无法理解,最终只会失去倾听的耐心。本书的“假名日文”部分用“|”和“||”两种符号来表示语音的停顿。

接着说明一下日语的音调。日语的音调属于高低型。“西湖(せいこ)”的音调为高低低,“博览会(はくらんかい)”为低高高低低低,“西湖博览会(せいこはくらんかい)”则是低高高高高低低低。即使是同一个词汇,根据与其组合的词汇不同,或在文中所处的不同位置,音调也会有所变化;即便掌握单个单词的音调,却无法正确朗读其在句子和文章中的读音,这正是日语音韵的难处所在。

为了更好地把等拍性、语音停顿、音调都表现出来,全文用假名来书写就显得非常必要。学习者若能把“假名日文”流畅地读下来,并领会其意思表达,也就表明已经掌握了这本书的精华。

●本书的使用方法

(汉文)

对于本书的使用,可以先从阅读“汉文”、理解含义做起。要把所有的内容全部都记住,不太现实。本书内容有难易之分,学习者应先将文章通读一遍,了解什么内容写在哪个部分,做到心中有数之后,就可以明确自己该把学习重点置于何处。本书并不需要按照前后顺序来学习,比较好的做法应该是从内容重要、且自己感兴趣的部分开始学起。

(汉字日文)

然后再将“汉字日文”与“汉文”对照阅读,理解日文篇章含义和日语的表达方式。在理解过程中,尤其需要对谓语部分的表现形式加以关注。

(假名日文)

对“汉字日文”的意思大致理解之后,需要通过“假名日文”来确定读法。

在这个阶段,给助词注上标记会对学习有所帮助。在“汉字日文”里助词很明显,但在“假名日文”中却让人一时难辨哪个是助词。尤其是“は”和“へ”,它们作助词时分别读作“わ”、“え”。在文中,到底哪一个

“は”、“へ”是助词,要在这个阶段就确认好,并在“汉字日文”和“假名日文”中相应做好标记。其实不仅限于“は”、“へ”,若把所有的助词都标注出来,一定有助于记忆。

例如,读到“きょせんとはくそていほこいにおち、…”是不是马上就能理解其含义呢?这里其实是“許仙と白素貞は恋に落ち、…”。前一个“は”念“は”,后一个“は”则念作“わ”。此外,这里还有“と”和“に”两个助词。

下一步,要以正常的声音,清楚地朗读“假名日文”。在读的过程中,要注意语音停顿和音调。每个句子都反复朗读,直到能既准确又自然地说出为止,达标后再继续往下读。

一次性记忆的范围可以逐步扩展,先从每一个“|”部分开始记忆,然后记住以“||”或“。”断开的各个部分,再将记忆内容扩大为以“。”结句的整个句子。

希望利用此书的每位学习者,能够以“假名日文”为主,参照“汉字日文”进行反复练习。但如果实在吃力,可以在“假名日文”上标注汉字,使意思更为明确。或者干脆不再拘泥于“假名日文”的推荐方式,返回到“汉字日文”,以“汉字日文”为中心进行练习。选用适合自己、且能够长久持续的学习方法是关键。

最理想的是,在最后阶段能够做到看着自己最为熟悉的“汉文”,直接用日语把它们表达出来。

关于年代与数字的记忆工作,可以留待后期进行。如果一开始就要记住这些,会让学习的过程变得痛苦。

●关于假名日文的标示

对于模仿外语原本发音的词汇,如外国地名、外国人名、外来语、外语原文等等,使用片假名标示。但是,像“はんでんじゅ(潘天寿)”这样,给中国文字标注日语读音时,则采用平假名。

(拗音)

给“きゃ”等的拗音标注高音符号时,为方便起见,会标注在一个假名上,就象“きゃ”这样。朗读时无需在“ゃ”处发低音,在发音时要按照1拍的节奏来发音。

(人名)

某个人名第一次出现时,发音要注意将姓和名分开来念,这样日本人一听就知道是人的名字。不过,僧侣的法号还是遵从日本的习惯,作为完整的一个词来处理。

●記号などについて

1.「|」「||」で示される音の切れ目(かな和文)

「|」と「||」の二種類の音の切れ目が示してある。

「|」は一瞬息を止めるところで、息継ぎはしない。「||」は息継ぎをして良いところである。

練習を始めたときは「||」だけで息継ぎをするのは難しいだろうから、「|」で息継ぎをしても良いが、慣れたら「||」だけで息継ぎするようにする。

文章表現の読点「、」とは位置が一致しないから、漢字和文で息継ぎを決めてはならない。句点「。」はもちろん息をするところである。

2.「˙」で示されるアクセント(かな和文)

かなの上につけてある「˙」は高低アクセントの高い音を示す。例えば「せいこ(西湖)」は高低低となる。

間違ったアクセントで発話していると、それを修正するのはとても難しくなる。短時間(5分とか10分)で良いから、毎日、アクセントの記号を見ながら発話する練習をすると、ある日突然すらすら話せるようになるはずである。

拗音では「しゃ」などのように子音の上に振ってあるが、これは便宜的なもので、一拍で発話される「しゃ」の音全体が高く発話されなければならない。促音「っ」はもちろん無音であるが、促音は子音の先取りであるので、次の子音と同じにしてある。「っ」を一拍として発話できれば、日本語らしさが一段と増す。

なお、アクセントの参考書としては「明解日本語アクセント辞典第二版(金田一春彦監修、秋永一枝編)」を使用した。

3.■、●、▼、()など

これらの印は文のまとまりを示すタイトルにつけてある。これらに続くことばを覚える必要はないが、何を学習しているかを意識するのに役立つ。

4.文番号

全ての文に番号が付してある。教師が指導する際に役立つであろう。

5.「★★」と「★」で示される重要な項目

文の番号に★印が付けてある。★★は日本語ガイド試験を受験するうえで、重要で欠かせない項目であり、★は学習者が適宜取捨選択して覚えれば良いものである。★のついていないものでも、自分の関心のあるもの、覚えやすいものは積極的に取り入れて良い。

●本書の狙い

本書は日本語ガイド試験を受験しようとする者が自主的に学習できるように作成した物であるが、既にガイド資格を持っている者がガイド内容を見なおす役にも立つであろう。

日本語ガイド試験の口頭試験を受けるにあたって、学習者が苦勞するのは漢字の読み、音の切れ目、アクセントであろう。漢字の読みは辞書を調べるなどして手掛かりがつかめるが、音の切れ目やアクセントは身近に日本人がいない限り、正しいものを身につけることはできない。しかし、この本によってそれらの苦勞が不要となり、学習者はひたすら練習に励めば良くなる。

●本書の構成

中国語文(以下「中文」という。)、漢字混じり日本語文(以下「漢字和文」という。)、仮名日本語文(以下「かな和文」という。)からなっている。

中文と漢字和文は左右に並べて書いてありかな和文がその下にあるので、容易に対照でき、文の理解、読み、音の切れ目、アクセントの習得が容易になる。

また、文のまとまり毎にタイトルがつけてあるので、何を学習しているか意識することができる。

注:この本では「漢字」は日本語を表わす文字としての漢字を指す。中国語を表す文字の場合は漢字と書く。

●本書の内容

本書の内容は従来の、中国語をそのまま日本語に翻訳したテキストと違い、日本人が聞いてわかりやすい日本語表現となっている。語彙の選択は極力カタカナ言葉を避け、年輩の方がわかる語彙を用いてある。また、固有名詞などでは中国語の字をなるべく生かして日本語読みをするようにしてあるが、それでは意味がわからなくなる場合はその意味を表す日本語に替えた。

中文は日本語文を翻訳した物であるが、日本語をそのまま中国語にできない部分は意識してあるので、両国語の表現法の違いを味わってほしい。

●かな和文について

漢字は、例えば「西」という字は、「西湖」では「せい」、「西方浄土」では「さい」、東西」では「ざい」、「西と東」では「にし」のようにひとつの文字が様々な読みを持つ。正しい読みを示す方法として、通常はルビ(振り仮名)が用いられる。

しかし、漢字を中国語で読める中国語話者にとって、振り仮名方式は意味をつかむには利があるが、正しい音韻をつかむためにはよい方法とは言えない。どうしても、中国語の音にひきずられてしまうからである。

日本語の音韻上の特徴の一つは等拍性にある。「しゃ」などの拗音を除き、かなひと文字ひと文字は「っ」(小さい「つ」:促音)も、「ん」(撥音)も、「おうさま」の「う」(長音)も基本的に同じ長さで発話される。これをつかむためには、最初はつらいかもしれないが、かな和文に慣れることがよい。

等拍性ととともに、音の切れ目も重要である。「てんにてんごくあり ちにそしゅうこうしゅうあり」では「てんにてんごくあり」で一旦音を切って発話することにより、内容を的確に伝えることが出来る。言葉を聞いて、イメージを膨らませ、理解する過程で、正しい音の切れ目が重要な役割を果たす。音の切れ目のもう一つの役割は息継ぎである。長い文章は一息で読み切れるものではないが、おかしなところで息継ぎをすると、意味が取れなくなり、しまいには聞くのが嫌になる。この本のかな和文には「|」と「||」の二種類の音の切れ目が示してある。

次に、アクセントについて述べる。日本語のアクセントは高低アクセントである。「西湖(せいこ)」は高低低と読まれ、「博覧会(はくらんかい)」は低高高低低低であるが、「西湖博覧会(せいこはくらんかい)」は低高高高高低低低と読まれる。このように、同じ言葉でも他の言葉との結びつきや文中の位置などによって、アクセントが変わり、個々の単語のアクセントをマスターしても、文や文章を正しいアクセントで発話することはできないところに日本語の音韻の難しさがある。

このように、等拍性、音の切れ目、アクセントを示すためには全文仮名で書いてあることが望ましいのである。かな和文がすらすら読め、頭の中でその意味がわかるようになれば、この本をマスターしたことになる。

●本書の使い方

(中文)

まず、中文をよく読んで内容をきちんと理解することから始める。全てを暗記することは到底無理であろうし、覚えやすい内容、覚えにくい内容などもあろうから、一度全体を通して読み、どこに何が書いてあるか良くつかんでおき、自分がどこに重点を置いて学習するかを決めることができる。この本は最初から順に学習しなければならないものではない。重要性が高く、かつ興味のあるところから学習を始め

るのがいいだろう。

(漢字和文)

次に漢字和文を中文と対照しながら読み、漢字和文の意味、日本語の表現方法を理解する。特に述語部分の表現形式を意識しながら意味を理解することがよい。

(かな和文)

漢字和文がだいたい理解できたら、漢字和文の読みをかな和文で確認する。

ここで助詞にマークをすることが学習の助けになる。漢字和文では助詞が容易に判別できるであろうが、かな和文ではそれが難しい。特に、助詞の「は」「へ」はそれぞれ「わ」「え」と発話するのだが、どの「は」「へ」が助詞か、この段階できちんと確認し、漢字和文とかな和文にマークしておくのがよいだろう。「は」「へ」に限らず、全ての助詞をマークしておけば、暗記の助けにもなる。

例えば、「きょせんとはくそていはこいにおち、…」を読んで、すぐに意味がわかるだろうか。これは「許仙と白素貞は恋に落ち、…」で最初の「は」は「は」、二番目の「は」は「わ」と読まれる。他にもここには「と」、「に」の二つの助詞がある。

続いて、かな和文を自然な声の大きさではっきりと読む。このとき、音の切れ目、アクセントに注意して読み、一文毎に精確にかつ自然にできるまで繰り返し読んで次に進む。

最初は「|」の区切り毎に、次に「||」と「。」の区切り毎に、そして、「。」の区切り毎にと、徐々に覚える範囲を拡大すればいいだろう。

ここから先はかな和文を中心に漢字和文を参照しながら繰り返し読むことが望ましいが、それがつらい場合には、かな和文に漢字を書き足して、意味をわかりやすくするか、かな和文にこだわらずに漢字和文中心に練習しても良い。継続的な学習ができる自分に適した方法を取ることが大切である。

最終的には最も理解しやすい、中文を見ながら、日本語で話せるようになれば最も良い。

年代や数値などの記憶は後から行った方がよいだろう。始めから覚えようとするとう学習がなくなる。

●かな和文の表記について

(カタカナの使用)

外国の地名、人名、外来語、外国語そのものなど、外国語の音を模した言葉はカタカナで記してある。但し、「はんでんじゅ(潘天寿)」のように、中国語の文字を日本語読みした場合はひらがなで記した。

(拗音)

「きゃ」などの拗音に付されるアクセントの「高」を示す傍点(は、都合上「きゃ」のようにひとつだけ打っているが、「ゃ」で下げる必要はない。あくまでも一拍で発話する。

(人名)

ある人名が最初に出てくるときは姓と名にわけて、発話するようにした。これにより、日本人が聞いて、人の名前だとすぐわかるからである。但し僧侶の法名は日本の習慣に従って一語として扱った。

目次

第1編 観光地案内編

第1章	西湖遊覧	3
第2章	霊隠寺と飛来峰	86
第3章	六和塔	146
第4章	龍井茶	209
第5章	浙江省概要	232
第6章	杭州概況	249

第2編 市内案内編

第7章	お迎えの案内	271
第8章	見送りの案内	332

付録

付録1	杭州の伝説	407
付録2	ナンバープレート	421
付録3	中国と日本の歴史区分	426

第 1 編

觀光地案内編



第1章 西湖遊覧

だい いっしょう | せいこ いうらん

■西湖

■西湖

■せいこ

- ★★1 “上有天堂,下有苏杭”。天堂杭州自古以来以西湖著称于世。 | 「天に天国あり、地には蘇州、杭州あり」と謳われ、地上の楽園に譬えられた杭州は古くから西湖を中心に栄えてきました。

てんに てんごくあり | ちに そしゅうこうしゅうありとうたわれ || ちじょうのらくえんにたとえ
られた こうしゅうは || ふるくからせいこをちゅうしんにさかえてきました。

- ★★2 曾经到访西湖的马可・波罗在其游记《东方见闻录》中记录了杭州当时的繁华盛景,称赞杭州为“世界上最美丽华贵的天城”。 | かつて西湖を訪れたマルコポーロは、杭州を「世界で最も美しく華やかな天上の都市」と呼び、その繁栄ぶりと美しさを『東方見聞録』に残しました。

かつて せいこをおとずれたマルコポーロは || こうしゅうを | せかいでもっともうつくしく | は
なやかなてんじょうのとしとよび || そのほんえいぶりとうつくしさを | とうほうけんぶんろ
くにの こしました。

- ★3 西湖是大自然赐予杭州的无上珍宝。 | 西湖は杭州が自然から贈られたかけがえのない宝物です。

せいこは こうしゅうがしぜんからおくられた || かけがえのないたからものです。

- ★4 自古以来,无数文人墨客、名人名家为西湖之美所吸引而流连忘返。 | 昔から西湖の美しさに魅せられて、多くの文人や政治家、著名人が去りがたい思いに駆られたのでございます。

むかしから | せいこのうつくしさにみせられて || おおくのぶんじんやせいじか || ちょめいじ
んがさ りがたいおもいにかられたのでございます。

- ★5 毛泽东生前非常喜欢西湖,到访杭州的次数就有40次之多。他将杭州视为第二故乡。 | 毛沢東は西湖をおおいに好み、生前杭州を40回も訪れ、ここを第二の故郷にしました。

も うたくとうはせいこをおおいにこのみ || せいぜん | こうしゅうをよんじゅうっかいもおとずれ
|| こをだいにのこきょうにしました。

- 6 美国前总统尼克松也曾两次访问杭州,并说“以后还要再来”。 | ニクソン元アメリカ大統領も杭州に二度おみえになり、「これからも、また来たい。」とおっしゃったそうです。

ニクソン もとあめりかだいとうりょうも || こうしゅうににどおみえになり || これからもまた
きたいとおっしゃったそうです。

●日本使者答里麻的故事

●日本からの使者答里麻の話

●にほんからのししや | たりまのはなし

- ★★7 明朝洪武皇帝时期,有一个来自日本的使者叫答里麻。 | 明の洪武帝の時代のことですが、答里麻という日本からの使者がおりました。

みんのこうぶていのじだいのことですが || たりまというにほんからのししやがおりました。

- ★★8 据称,他在游览西湖之后如是说道: | その答里麻が西湖を遊覧した後にこう言ったそうです。

そのたりまが | せいこをゆうらんしたあとにこういったそうです。

- ★★9 “昔年曾见此湖图,不信人间有此湖;今日打从湖上过,画工还欠费功夫。” | 「以前、西湖を描いた絵を見て、こんなに美しい湖がこの世にあるはずがないと思っていた。しかし、今日こうして自分の目で西湖を見ると、むしろ画家の技量が足りなかったのだということに気が付いた。」

いぜん | せいこをかいたえをみて || こんなにうつくしみずうみが | このよにあるはずがない
とおもっていた。 || し | きょう | こうしてじぶんのめでせいこをみると || むしろ | がかの
ぎりょうがた | りなかつたのだということにきがついた。

- ★★10 答里麻以此来盛赞西湖的秀美。 | 答里麻はこう西湖の美しさを讃えたそうです。

たりまはこう | せいこのうつくしさをたたえたそうです。

● 西湖的别称

● 西湖の別称

● せいこのべっしょう

- ★★ 11 | 西湖古称“武林水”、“明圣湖”、“金牛湖”，唐朝时期称“钱塘湖”、“上湖”。 | 西湖は古くは「武林水」、「明聖湖」、「金牛湖」と呼ばれ、唐の時代には「錢塘湖」、「上湖」と呼ばれておりました。

せいこは | ふるくはぶりんすい | めいせいこ | きんぎゅうことよばれ || とうのじだいには | せん
とうこ | じょうことよばれておりました。

- ★★ 12 | 北宋大诗人苏东坡任杭州太守时，他赋诗咏诵西湖说：“水光潋滟晴方好，山色空蒙雨亦奇。欲把西湖比西子，淡妆浓抹总相宜。”于是，西湖又多了个“西子湖”的美称。 | 北宋時代の大詩人蘇東坡が杭州の知事を務めていた時、「水光潋滟として、晴れてまさに好く、山色空濛として、雨もまた奇なり、西湖を把って、西施に比せんと欲すれば、淡粧濃抹、総べて相宜し」と西湖の美しさを謳う詩を書いたことから、西子湖とも呼ばれています。

ほ
んとして | ほ
て
しさをう
 | そうのだいしじんそとうぼが | こうしゅうのちじをつとめていたとき || すいこうれんえ
 | はれてまさによく || さんしょくくうもうとして | あめもまたきなり || せいこをと
 | て | せいしにひせんとほっすれば || たんしょうのうまつ | すべてあいよしと || せいこのうつく
 | しさをう | たうしをかいたことから || せいしこともよばれています。

● 夜明珠传说

● 夜光玉伝説

● やこうぎょくでんせつ

- 13 | 传说中，西湖本是一颗从天而降的明珠。 | 伝説では、西湖は天から落ちてきた美しい珠だといわれております。

でんせつでは | せいこはてんからおちてきたうつくしいたまだといわれております。

- 14 | 住在天河东西两边的玉龙和金凤偶然捡到了一块璞玉。玉龙用爪、金凤用喙对玉石加以雕琢，使得它成为了一颗闪烁耀眼光芒的明珠。 | 天の川の東西に住む玉竜と金色の鳳凰が輝く石を見つけ、玉竜が爪で、鳳凰が嘴で磨き、キラキラと輝く美しい珠にしました。

あ
け || ぎよ
たまにしました。
 | あのがわのとうぎいにすむ | ぎょくりゅうとこんじきのほうおうが || かがやくいしをみつ
 | け || ぎよ | りゅうがつめで | ほうおうがくちばしでみがき || きらきらかがやくうつくしい
 | た | まにしました。